

月刊
ととろ独立行政法人国立病院機構
いわき病院

第221号

令和5年1月発行

National Hospital Organization Iwaki National Hospital

信条

- ◆ 患者さま本位の医療を行います
- ◆ 患者さま及び家族の生活を大事にします
- ◆ 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します



年頭のご挨拶



あけましておめでとうございます。

2020年のお正月、中国の武漢で原因不明の肺炎が流行しているというニュースが飛び込み、1カ月もしないうちに日本国内でも感染者が確認されて丸3年、私たちの生活のほとんどすべての部分に「コロナ対策」という言葉がついてまわる状態が日常化しております。

さらに今シーズンは3年ぶりにインフルエンザの流行もあり、また鳥インフルエンザの影響で卵の価格上昇という異常事態も起こっています。鳥インフルエンザは大陸から飛来する渡り鳥が持ち込むことがわかっています。大陸から飛来（到来）するものは弾道ミサイル、軍用機、艦船だけでなく、かわいい渡り鳥も社会的脅威ということになります。

今年は卯年、この広報誌の「ととろ」は、以前当院が建っていた「渡兎路」の地に由来しますし、当院の公認キャラクターのラビゼルちゃんのラビは兎です。

100年前、200年前、300年前にどんなことがあったのか振り返ってみました。100年前の1923年は関東大震災の年でした。今再び首都圏大震災の発生リスクが話題になってきています。200年前の1823年、この年にはシーボルトが来日しています。翌年今の長崎市内に鳴滝塾を開設し、日本で初めての西洋医学の教育を開始しています。300年前の1823年、江戸幕府8代将軍徳川吉宗は目安箱に投書された漢方医の意見を採用し、江戸の町の発展とともに増えてきた下層民貧民対策として施薬院；小石川養生所を設置しました。当時の医師はすべて漢方医です。驚くべきことに昼間診療を担当する医師の他に、夜間の急患に対応するために別に複数の医師が任用されています。下層民対策、医師の勤務体制など、今よりも心温かい時代だったのかも知れません。国立療養所の大先輩のようなこの養生所、いわゆる入所者の転帰については、全快、難治、病死の他に願下（＝自主退所）、掟背（＝強制退所）などと記載があり、現在とあまり変わらなかったのだなということもわかります。

今年こそコロナ以外の話題で盛り上がり、口元の動きでの感情表現をお互いに確認することのできる社会が戻ってくることを期待しつつ、年頭のご挨拶といたします。

院長：吉沢 和朗



令和4年度 功労者表彰

令和4年12月28日に、令和4年度功労者表彰の表彰式が行われました。

功労者表彰は、文化・経営面並びに患者サービス等の向上を図ることを目的として、いわき病院に多大な貢献をした個人、団体を表彰するもので、審査委員会において決定し本年度は下記の方々を受賞されました。

庶務係：小嶋 明

氏名・団体名	受賞理由
會田 隆志 (リハビリテーション科医長)	医師不足の中、多数の患者の診療に従事された。
樋口 雄一郎 (主任言語聴覚士)	職場内において積極的にコミュニケーションを取り、同僚職員への配慮に努められ、他職種との連携も円滑に取れていた。
畠山 カヨ (臨床検査技師長)	迅速な検査対応等、感染予防に積極的に貢献された。
木下 愛 (臨床検査技師)	迅速な検査対応等、感染予防に積極的に貢献された。
琴畑 利昌 (外来師長)	迅速な検査対応等、感染予防に積極的に貢献された。
須藤 貴之 (第2病棟副看護師長)	covid19対応に関わる対外貢献をされた。
小松 成光 (ボイラー技士)	コロナユニット稼働等感染対策に迅速に対応された。



摂食嚥下について学ぼう！！

重症心身障害児者や神経難病の患者さんにとって、安全においしく食べるということはとても重要であり、そのための医療・看護を担っていくことは私たちの使命です。今回、12月7日に、新人看護師さんと全職員対象に、宮城病院から摂食嚥下障害看護認定看護師さんをお招きして、研修と病棟ラウンドを行いました。

新人看護師さん向けの研修は、講義で基礎的な知識について学びました。演習では、実際に患者役と介助する看護師役となり、悪い姿勢や正しい姿勢、介助方法の違いにより、食事摂取がとても困難になることや安楽になることを体験しました。ペースト食やきざみ食の食事体験からは、食べる物の形の違いによって、何を食べているか、味の違いなどを感じることができ、患者さんの立場になって食事をするを考える良い機会となり、楽しく研修ができました。

全職員向けの研修では、講義の他に、各病棟のラウンドをしながら、摂食嚥下の難しい患者さんの食べ方や摂食訓練の様子など確認してもらいアドバイスを頂くことができました。

専門的知識を有する認定看護師さんからの指導やアドバイスは、職員にとって良い刺激にもなりました。これからもっと安全に楽しく食事をするができるように、多職種みんなで頑張っていきたいと思っています。

教育担当看護師長：佐藤 美恵子



口を開けたまま飲み込んでみよう！



悪い姿勢での飲み込み



正しい姿勢にしましょう！！



きざみ食：形はないけど味はわかるね。



NHO PRESS ~国立病院機構通信~

いわき病院は、全国 140 病院からなる国立病院機構 (NHO: National Hospital Organization) のひとつです。

NHO では各病院の活動を紹介する『NHO PRESS』を発行しています。

外来待合室などに設置しています。ぜひご覧になってください。

国立病院機構ホームページでは最新号と過去の『NHO PRESS』を掲載しています。



QRコード

NHO PRESS

検索

いわき病院の診療体制等について

- 診療科目 内科、脳神経内科、外科、脳神経外科、小児科 (小児神経疾患)、リハビリテーション科
- 外来受付 8:30~11:30 (ただし、急患につきましては電話にてご相談下さい。)
- 診療時間 8:30~17:15

外来担当医師診療日程表 【令和4年4月~】

区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	内科 診察① 鈴木 栄 診察② 市原 利勝	内科 診察② 尾澤 康彰	内科 診察① 鈴木 栄 診察② 齋 敬明		内科 診察③
	脳神経内科 診察③	脳神経内科 診察③ 會田 隆志	脳神経内科 診察③	脳神経内科 診察① 會田 隆志	脳神経内科 診察①
	外科 尾田 宣仁	外科 診察① 吉沢 和朗	外科 尾田 宣仁	外科 診察③ 関 晴朗	外科 吉沢 和朗
専門外来 (完全予約制)					
午後	専門外来 (小児神経外来) 診察① 柳沢 俊郎		専門外来 (神経難病) 関 晴朗		専門外来 (小児神経外来) 柳沢 俊郎



お知らせ

◆患者相談窓口

患者さんやお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談窓口』と『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板上に掲示しています。

◆当院受診について

他の医療機関に通院中の方は、主治医の先生に当院地域医療連携室を通して診療予約をとって頂いた上で来院願います。



発行元 **独立行政法人国立病院機構 いわき病院**
 National Hospital Organization Iwaki National Hospital
 責任者 吉沢 和朗
 所在地 〒971-8126 福島県いわき市小名浜野田字八合 88 番地 1
 TEL 0246-88-7101 FAX 0246-88-7075
 ホームページ <https://iwaki.hosp.go.jp/>